

自著と
その周辺

臨床検査法提要 改訂第34版

金原出版

1,970頁

2015年

監修 金井正光
編集 奥村伸生, 戸塚 実, 矢富 裕

定価16,200円 (税込)

2012年, 信州医誌の「自著とその周辺」において臨床検査法提要改訂第33版(2010年発行)について紹介させていただきました。改訂第33版発行以来5年が経過し2015年に改訂第34版を上梓することができましたので, 改めて紹介させていただきます。

臨床検査法提要の第1版は昭和16年(1941年)6月に当時の金原書店(現在の金原出版)から出版されました。改訂第34版監修者金井正光信州大学名誉教授による改訂第32版の序によれば, 原著者金井 泉博士(金井正光名誉教授のご尊父)によって記された発刊の経緯が次のように引用されています。“昭和10年頃は臨床検査を専攻するような学者はきわめて少なく, また臨床検査全般にわたり, 機能検査も含めてまとめた成書は見当たらなかった。したがって患者診療にあたって, 適正な検査法に通暁していくことは, 新入医局員や実地医家にとって容易な業ではなかった。著者はこのことを痛感し, 各種の検査法を比較実験し, 良法を整理して一見実施しやすいように摘録収集し, 昭和8年以来, これらのメモをプリントし「生物学的臨床検査診断法」として海軍軍医学校の経典として使用してきたが, 昭和16年金原書店から懇望され「臨床検査法提要」として公にした。”

平成22年の改訂第33版発行以来5年が経過し, 臨床検査の進歩と医学・医療の発展に寄与するために, さらに改訂を行ってきました。作業開始以来約3年が経過し, 当初の予定より4カ月遅れてしまいましたが, 2015年6月改訂第34版が完成しました。遅れた理由は, 他の書籍などの場合と大きく異なり, 執筆の先生方の原稿が遅れたわけではなく, 多岐にわたる内容であるために索引の頁選択に時間を要したことと, 装丁が辞書のような本格製本であるために時間を要したことでした。

今回の改訂では, 以下の4点を編集コンセプトとしました。

1. 最新の臨床検査項目を取り入れ, 臨床検査技師養成校の臨地実習や臨床検査技師の卒後教育に本書1冊で対応可能とする。
2. 日本臨床検査標準化協議会(JCCLS)の「共用基準範囲」を取り入れた検査データの評価基準を採用し, 必要に応じ各専門学会の「臨床判断値」を併記する。
3. 検体検査では「コンパニオン診断と臨床検査」の章を新設, 生理検査では乳腺・甲状腺の画像検査をさらに充実。すべての検査をバランス良く, わかりやすく解説し, 臨床検査に関係するすべてのメディカルスタッフに利用していただく。
4. 第1~20章の冒頭に大局的ポイントをまとめた Introduction を新設した。

改訂第33版刊行以降の臨床検査関連の主な動向は以下の通りでした(出現順)。

1. 抗凝固薬ヘパリンの副作用としての HIT (heparin-induced thrombocytopenia) の疾患概念と検査法の確立。
2. 日本動脈硬化学会ガイドライン2012年版では, 測定試薬(キット)間のばらつきが無視できないことから, LDL-C は Friedewald の式で計算することに決定された。
3. HbA1c において, 2013年4月1日以降 JDS 値から NGSP 値への完全移行が行われた。
4. 微生物検査における, リボソーム RNA 遺伝子および質量分析(MS)を用いた同定法の開発・普及が急速に進行中である。
5. 新規薬剤耐性菌 MDRAB・NDM-1のわが国での感染例報告と, ダニ媒介性新規ウイルス感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が発見された。
6. 2014年B型C型慢性肝炎・肝硬変治療のガイドラインに基づいて HBs 抗原定量が不可欠とされた。

以上のような内容を改定版には取り入れました。

現在「検査値の読み方」を主題にした書籍が多数刊行されていますが, 原著者金井 泉先生は「臨床検査法提要」は実際に手にして検査ができる「マニュアル」であることを目指していました。このため本書の英文表記は“Kanai's Manual of Clinical Laboratory Medicine”であります。今回の改訂第34版が, 臨床検査に携わる多くの臨床検査技師あるいは医師に幅広くかつ的確に利用されることを切望しております。また, より良い次期改編のために本書に対する忌憚のない意見をいただければ幸いです。

最後になりますが, 本書第34版の著者数は140名ですが, その内53名が信州大学在職中または信州大学にかつて在職しておられた先生方であり, 信州大学を中心にして上梓された本と言って過言ではありません。お忙しい中を御執筆いただいた著者の先生方に心より感謝申し上げます。本改訂版が臨床検査に携わる多くの臨床検査技師あるいは医師に幅広くかつ的確に利用され, それが医学・医療の発展に寄与し, さらに患者さんの正確で迅速な診断に還元され QOL が向上する一助となることを切望しています。

(信州大学医学部保健学科病因・病態検査学講座 奥村伸生)